

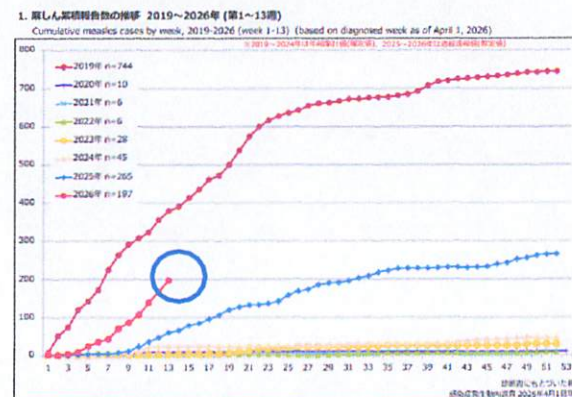
週間感染症情報

2026年13週~14週 2026年3月23日より2026年4月5日まで

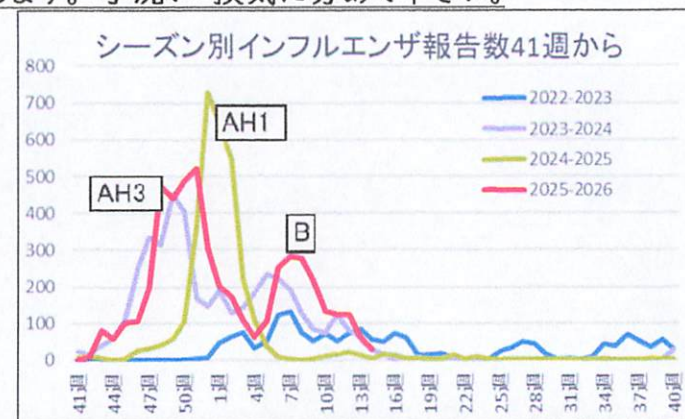
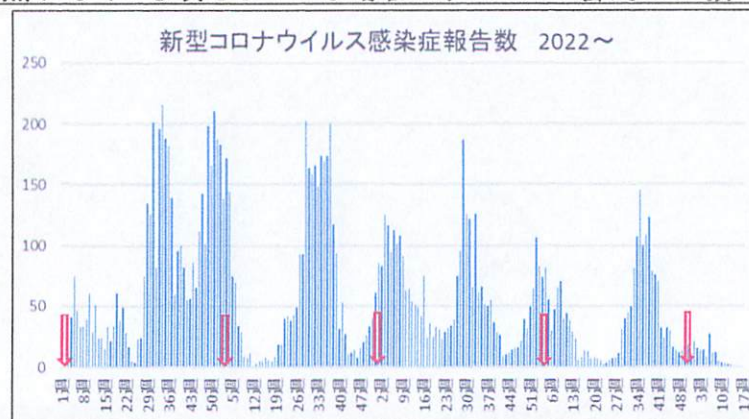
13週 14週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)		
インフルエンザ(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	11	2
手足口病		2
ヘルパンギーナ		
伝染性紅斑		2
感染性胃腸炎	34	19
ノロウイルス(再掲)		
便口ウイルス(再掲)	1	
突発性発疹		1
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	3
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症		
RSウイルス感染症	10	6
マイコプラズマ感染症	2	2
ヒトメタニューモウイルス	1	5
インフルエンザ	60	31
インフルエンザ A	1	0
インフルエンザ B	47	23
新型コロナウイルス感染症	2	1

遅くなりましたが、13-14週の2週間分の報告です。B型の流行は7週をピークに減少し、春休みに入りほぼ終息しました。新型コロナウイルスの報告は1~2例です。冬のピークはなくなりました。5年がたち流行のパターンも変化しているようです。感染性胃腸炎は、冬場の大きな流行はありませんでした。マイコプラズマ感染症は、年少児の症例もあり報告が続いています。RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症が増加しています。これに関連して喘息発作の悪化例も増加しています。右のグラフは麻疹の報告数の推移です。麻疹は空気感染するため感染力が強く、特別な治療法はありません。高熱が1週間続き、肺炎など合併症を起こし、現在でも1000人に一人は亡くなります。2019年に744例の報告がありました。その後はコロナの流行で厳しい感染対策が実施されて著減しました。2025年には、海外よりの持ち込み例などで265例と著増し、13週現在で197例となりました。麻疹はワクチンで予防できる病気です。1歳と年長になったら、すぐにMRワクチンを接種しましょう。



熱がなくても咳をしている場合は、マスクの着用をお願いします。手洗い・換気に努めて下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)